

2025年度1学期終業式 校長講話要旨

○1学期を振り返って

今日で1学期が終わります。中・高の新生1年生は、ようやく新しい学校生活にようやく慣れてきたところでしょう。しかし、悪い意味で学校生活に慣れないでほしい。カタカナで言う「テキトー」な学校生活を送らないようにしてください。

高校3年生は、様々な意味でこの夏が自分の進路を決めていく時期になります。自分は何になりたいのか、何を目指していくのか、を明確にしてこの暑い夏を乗り切ってください。

中学の2年・3年生は、これから自分のやりたいことを追求できる時期に来ています。様々なことにチャレンジしてください。

高校2年はこれからこの学校の中心となって活躍してもらう時期に来ました。同じく様々なことにチャレンジして自分の可能性を広げましょう。

○混沌とする国際情勢

本校では「地球規模で思考のできる人材」を育成することを目指していますので、国際情勢についても関心を持ってほしいと思います。アメリカのトランプ大統領は、ウクライナ情勢やイスラエルとハマスの軍事衝突等について、すぐに終結させると、就任以来スピーチしていますが、未だにその出口は見えない状況です。

さらにアメリカは、イスラエルとイランの軍事衝突に際してイランの核開発施設を、いきなり空爆するなど国際法にも抵触するような強硬手段を取り、アメリカとイランの関係はこの後どのような展開になるかはまだわかりません。イランがペルシャ湾のホルムズ海峡を封鎖するような事態になれば、この地域から石油を輸入している日本への影響は計り知れません。無事収束してもらうことを願うばかりです。

加えて貿易赤字に苦しむアメリカは、貿易に関する関税を国別に設定して、世界経済をある種困惑、混乱させています。この関税政策の行く末はどうなるのか、トランプ大統領の任期の間だけ我慢していればいいのか、これも見通しのつかない状況です。

○明日が参議院選挙

高校3年生の中には、既に18歳となり、成人になっている人も在籍生徒のうち、1／3くらいいることでしょう。今年は25歳以上の男子に選挙権が与えられた、普通選挙法制定100周年になる国政選挙になります。明日の参議院議員選挙に投票できる人も多いことでしょう。

今から160年前に暗殺されたアメリカの第16代大統領、「奴隷解放の父」と呼ばれるエイブラハム＝リンカンが27歳のときに、イリノイ州の州議会議員選挙で2度目の当選を果たしたときの演説で「群衆性の課題」として、

「政治制度としての人民自治の制度は自らの民主的性格の故に常に深刻な危険を内在する。権威や拘束から解放された人々の情熱は、統治規範を失ったときいたずらに情緒的な煽動に押し流され、法の尊厳を軽んじる衆愚的心理 mobocratic spirit に引きずられやすい。自治が孕む先の陷穽（落とし穴）には、人民の激情を煽る独裁的僭主の危険がたえず内在しているのだ」と、ポピュリズム・大衆迎合主義への警鐘を鳴らします。

これは、ドイツのヒトラーが出現する約90年前の演説です。アメリカ政治と社会が孕む情緒的群衆性を摘出するリンカン、それに立ち向かう新しいアメリカン・ナショナリストとしての立ち位置を構築しようとしていました。続けて、

「アメリカ革命の熱情、記憶は薄らぎ、人民の情熱だけに頼ってわが国の自由の制度を守ることは困難だ。代わってわが国制度の柱となるべきは、冷静で分別のある知性、そして健全な道義に裏打ちされた法への信頼の精神である。知性と法の精神を鍛え、行き渡らせることが人民の自治の永続化を目指すうえで何よりも肝心のだ」と訴えます。

果たして、現在のアメリカ合衆国の政治状況はどうでしょうか？いたずらに情緒的な煽動に流されていないでしょうか？独裁的僭主が人々の激情を煽っていないでしょうか。

翻ってわが国でも同様です。これから国民に求められることは、冷静で分別のある知性、そして健全な道義に裏打ちされた法への信頼の精神です。

今から80年前、戦後すぐの混乱した言論の状況について、社会学者の清水幾太郎は、以下のよう

に振り返っています。

「…外的な制限がすべて除かれ、それを補うべき内的な制限もないまま、今日のように言語のインフレが起こってくると、……一部の週刊誌、スポーツ新聞のプロレス記事、諸新聞のセンセーショナルリズム、リアリティとは関係なく、ただラディカルであることだけを狙った雑誌論文。言語は、貨幣が経済生活で占めている地位を精神生活で占めている。精神の貨幣である言語が無制限に供給され、それが惜し気もなく費消されることによって、一語一語の価値が低くなり、シンボルへの信頼が失われて行く。言語のインフレは、精神生活の破産へ通じている。」

「諸新聞のセンセーショナルリズム、リアリティとは関係なく、ただラディカルであることだけを狙った雑誌論文」としたところを、SNSや、インターネットの記事と読み替えるだけで、そのまま現在にも通じることです。過激で過剰な言語の流通によって、言葉のもつ価値が低くなる言語のインフレ化は、報道やひいては社会への信頼が失われることであり、私たち自身の精神を壊していくのかもしれない。

ですから、明日の参議院選挙ではいたずらに情緒的な煽動に押し流されないで、冷静に判断して、この人と信じられる人を選んでほしいと思います。

また、茨城県では、夏休み明けの9月7日に県知事選挙、取手市、牛久市、つくば市、筑西市では県会議員の補選が予定されています。このときには有権者となる高校3年生も増えていることになります。冷静な判断をしてほしいと思います。

○明日から実質的に夏休み

グローバルコース2年生は、明日からオーストラリア アデレードへの2週間のホームステイ語学研修です。その1週間前にはニュージーランドへの希望者による研修がすでに始まっています。また、28日からはマレーシアへの研修、8月にはカナダのバンクーバーでの研修等、様々外国への研修があるほか、運動部では、インターハイなど夏の大会が連続します。皆さんそれぞれ充実した夏休みが送れるようにしてください。